

第40回 原産年次大会 プログラム

基調テーマ：原子力立国日本をささえる燃料サイクル
 ——平和利用促進と核不拡散の調和を世界へ
 開催日：平成19年4月9日(月)～4月12日(木)
 場所：ホテル青森「孔雀の間」

年次大会		IAEAシンポジウム (主催:IAEA、共催:日本政府・原産協会)	年次大会
4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)
テクニカルツアー Aコース 日本原燃・六ヶ所施設 Bコース 東北電力・東通原子力発電所	開会セッション (9:30～11:00)	オープニング (9:30～10:30)	セッション2 (9:30～12:30) 今後、原子燃料は 安定的に供給されるか
	特別講演1 (11:15～12:00)	原子力発電と 核燃料サイクル (11:00～13:00)	昼休み (12:30～13:45)
	午餐会 (12:15～14:00) (青森グランドホテル)	昼休み (13:00～14:30)	
	来賓挨拶 (14:25～15:00)	安全とセキュリティ (14:30～16:30)	セッション3 (13:45～16:15) Locally and Globally ——青森が世界の 原子力に果たす役割
	セッション1 (15:00～18:00) 拡大する世界の原子力発電 と原子力産業メイン プレーヤーの展望	核不拡散 (16:30～17:10)	特別講演2 (16:20～17:00)
レセプション (17:30～19:00)	学生セッション (12:15～14:00) 主催：日本原子力学会 学生連絡会	円卓会議 (17:30～18:30)	大会ステートメント

第40回原産年次大会 セッション内容

平成19年4月2日
(社)日本原子力産業協会

【基調テーマ】

原子力立国日本をささえる燃料サイクル
——平和利用促進と核不拡散の調和を世界へ

レセプション 4月9日(月) 17:30~19:00

開会セッション 4月10日(火) 9:30~11:00

議長：高橋 宏明 東北電力(株) 社長

【所信表明】

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

【大会準備委員長挨拶】

遠藤 正彦 弘前大学 学長

【講演】

「次代を担う子どもたちのために」

三村 申吾 青森県知事

「原子力政策の重要課題」

近藤 駿介 原子力委員長

特別講演1 4月10日(火) 11:15~12:00

議長：鈴木 篤之 原子力安全委員長

「安全で確実な原子力への協力の道すじ」

デイル クライン 米国原子力規制委員会(NRC) 委員長

午餐会 4月10日(火) 12:15~14:00

(会場：青森グランドホテル「平安の間」)

【特別講演】

青森県固有の文化である津軽三味線について、地元の専門家よりその歴史や魅力をお話しいただき、青森県に対する理解を深める機会とする。

「津軽三味線の歴史エネルギー」

大條 和雄 日本民謡文化振興協会 名誉教授・理事、
全日本津軽三味線友の会 会長

学生セッション 4月10日(火) 12:15~14:00

「青森における原子力キャリアデザイン、最前線技術者たちの思いと情熱」

(主催：日本原子力学会 学生連絡会)

原子力産業界の技術者と学生で意見を交わし、原子力産業界に対する学生の認識向上と発展に資することを目的とする。

来賓挨拶 4月10日(火) 14:25~15:00

議長：遠藤 正彦 弘前大学 学長、大会準備委員長

水落 敏栄 文部科学大臣政務官
谷本 龍哉 内閣府大臣政務官
高木 美智代 経済産業大臣政務官

セッション1

4月10日(火) 15:00~18:00

「拡大する世界の原子力発電と原子力産業メインプレーヤーの展望」

世界における原子力発電計画の拡大傾向に呼応するように、昨今、企業の合併・事業提携を含め原子力産業の動きが活発化している。国際化していくこれら巨大企業は、今後の原子力開発において大きな役割を果たしていくものと考えられる。

このセッションでは、世界的な原子力産業のメインプレーヤーが原子力の将来をどのように展望しているのかを示し、今後の原子力発電市場への戦略等を紹介する場とする。

議長：勝俣 恒久 東京電力(株) 社長

【基調講演】

「国際エネルギー情勢と原子力」

寺島 実郎 (財)日本総合研究所 会長

講演者：

「世界的な原子力エネルギーの拡大を支える新たな投資とパートナーシップの構築」

アンヌ ローベルジョン アレバグループ 最高経営責任者

「ロシアの原子力産業の再編と国際戦略」 (仮題)

セルゲイ キリエンコ ロシア原子力庁 長官、元 ロシア連邦首相

「新しい原子力——米国とGEの観点」

アンドリュー ホワイト GEニュークリア・エナジー社 社長

「世界の原子力発電の発展に向けた東芝の取組み」

庭野 征夫 (株)東芝 副社長、東芝ニュークリアエナジー米国社 会長兼社長

国際原子力機関(IAEA)設立50周年特別シンポジウム

4月11日(水)

「原子力エネルギー：未来に向けた世界の挑戦とIAEA」

(主催：国際原子力機関(IAEA)、共催：日本国政府・原産協会)

国際原子力機関の50年間の活動と原子力発電と核燃料サイクルの現状を評価するとともに、原子力発電と核燃料サイクルの開発と安全確保、およびその国際協力について将来ビジョンを議論する。

セッション2

4月12日(木) 9:30~12:30

「今後、原子燃料は安定的に供給されるか」

エネルギー安全保障や地球温暖化への有効な対策として、欧米諸国とならび中国やインドを始めとする開発途上国が原子力発電の拡大に傾斜していくことは、必然的な動きである。将来にわたってウラン資源や濃縮の供給能力は、世界の需要を担保しうるか、また、核不拡散を促進しつつ、拡大するニーズに対して燃料の安定供給が将来にわたり確保できるかどうかは、原子力発電の将来を左右する。さらに、供給能力を拡大する観点から極めて重要な燃料のリサイクルが鍵を握っている。

このセッションでは、原子燃料供給者と受領者が、将来の原子燃料市場を展望し、安定供給のあり方について論じるとともに、今後わが国の燃料サイクル事業を安定的に展開するための課題を探る。

議長：秋元 勇巳 (社)日本原子力産業協会 副会長、
三菱マテリアル(株) 名誉顧問

パネリスト：

スティーブ キッド 世界原子力協会(WNA) 戦略・研究部長
モフタール ジャキシエフ カザフスタン原子力公社 社長
ジェイ セイヤー 米原子力エネルギー協会(NEI) 副理事長
森本 浩志 電気事業連合会 原子力開発対策委員会 委員長、
関西電力(株) 副社長
モーリス レンダース URENCO 専務取締役

セッション3

4月12日(木) 13:45~16:15

「Locally and Globally——青森が世界の原子力に果たす役割」

青森県には現在、東通原子力発電所および六ヶ所燃料サイクル施設が立地するほか、大間原子力発電所、リサイクル燃料貯蔵施設の建設準備が進められている。このように、同県には、原子力エネルギーの利用技術が、発電、燃料サイクルのほぼ全てにわたり事業として蓄積されつつあり、わが国の原子力立国実現の観点から重要な役割を果たしている。

このセッションでは、原子力エネルギー開発利用の拠点地域(Locally)としての青森県に焦点をあて、各施設の現状等を紹介するとともに、地域の視点を交え、それらのもつ世界的な意義(Globally)について考えることとする。

議長：神田 啓治 京都大学 名誉教授、エネルギー政策研究所 所長

【基調講演】

「世界の中の原子力立国日本——その実現に果たす青森の役割」

舟木 隆 経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部長

パネリスト：

蝦名 武 青森県 副知事

岡崎 俊雄 (独)日本原子力研究開発機構 理事長

兒島 伊佐美 日本原燃(株) 社長

末永 洋一 青森大学 総合研究所 所長 教授

榎本 晃章 電気事業連合会 副会長

特別講演2

4月12日(木) 16:20~17:00

地球環境問題の重要性の観点から、ここでは地球温暖化に関する専門家より講演をいただき、広い視点での原子力の役割について考える。

議長：鳥井 弘之 (社)日本原子力産業協会 理事、東京工業大学 教授

「気候変動への挑戦：エネルギーの新たな将来にむけて」

ラジェンドラ パチャウリ 気候変動に関する政府間パネル 議長

大会ステートメント

服部 拓也 (社)日本原子力産業協会 副会長

以上